

受講者からの感想

- 中学校では、スポーツをしている生徒のけがが多く、けがで来室した生徒からは「部活（クラブチーム）にいいですか？」という声が多くあります。その際に「しないほうがいい、無理をしないで」という声はかけますが、私も自信なく伝えていたところでした。なので、今回の講義で大場先生がおっしゃられていたように、子どもたちの将来を考えての指導ができるように心がけたいと感じました。
- 大場先生の講義では、整形外科医としてお立場から、現在の小中学生に多いけが等の貴重なお話をお伺いできて大変勉強になりました。先生が「医者は診断(手術等)をするだけで、治療は理学療法士はじめ医療の[チーム]で行う」という言葉に感銘を受け、専門職がそのプロフェッショナルな能力を発揮して対応していくことが、我々の学校現場と同じだと強く感じました。また、川野先生の講義、さらには実技演習が、より実践的で大変勉強になりました。自信を持って、すぐに保健室で実践できる研修でした。
- 大場先生の講義では、具体的な治療法や、小中学生に多いスポーツ外傷や障害の実態について詳しく学ぶことができました。改めて、学校現場でもスポーツによるけがが非常に多いこと、そして早期対応や予防のための知識を子どもたちや保護者に伝えていくことの重要さと難しさを感じました。また、同じけがでも「急性の外傷」と「慢性的な障害」では原因や対応の仕方が異なり、一見軽く見える痛みの中にも大きなリスクが潜んでいることを知りました。これまで「とりあえず冷やして様子を見る」対応をしていた場面でも、けがの背景や再発予防の視点を持って観察することの大切さに気づきました。さらに、包帯法や三角巾の実技を通して、正しい巻き方や固定のポイントを学ぶことが出来ました。実際に手を動かし、近隣学校の養護教諭と意見を交わしながら実技を行うことができたことが学びにつながりました。
- 大場先生の講義では、たくさんの画像（事例）をもとに疾患やその予後などを説明していただきました。普段、レントゲンやMRIの画像を見る機会がないので、とても貴重な機会でした。時々、自分でテキストに載っている画像を見たりしますが、どういった点に着目して見たらよいのか分からず、なんとなく見ているなど思っていました。今後も、このような機会がありましたら、画像の着目点を含めて、いろいろとお話をお聴きできる機会があったら嬉しいです。
川野先生の講義と演習は、正確に応急処置をすることの大切さを学びました。まだ、重症なけがを負った児童の対応をしたことがありません。こちらでも同じで、三角巾を使用して固定したり、包帯で固定して病院受診といった状況も経験しておりません。そのため、こういった手技について、恥ずかしながら採用試験以後、ときおり自分で動画を検索して手技の確認をしたりしていますが、身についていると実感はしていませんでした。本日、演習があるということで、実施前までは「苦手だな・・・」「実技ができないことが他の養護教諭の先生に知られるの恥ずかしいな・・・」と思っており、憂鬱な気分でした。ですが、ペアの方や近くの方と話しながら実技の練習ができて、とてもよかったです。これこそ、一人で練習はできないので、こういう機会はありがたいなと思いました。今でも、包帯や三角巾を扱うことに苦手意識は変わりませんが、実技が身についていないということを認めて、そこから一つひとつ習得していこうという前向きな気持ちになっています。